

特集

## 鉄道事業の永続性

[活力ある沿線コミュニティを支える]

### TOP INTERVIEW

# 沿線価値の向上に取り組み、 「住んでもらえる、 選んでもらえる沿線」に。

鉄道事業が将来にわたって活力を維持する。  
その支えとなるのは、沿線の力に他ならない。  
少子高齢化の進行、都心回帰の波——沿線人口の減少が危惧されるなか、  
京王電鉄は、沿線価値を高めるためのさまざまな施策を通じ、  
沿線住民とともにある将来像を見据える。  
「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」の実現を目指し、  
持ち前のフロンティア精神を発揮する京王グループならではの取り組みを、  
京王電鉄株式会社 永田正代表取締役社長に伺った。

京王電鉄株式会社 代表取締役社長

永田 正  
Tadashi NAGATA





①多摩川を渡る京王線  
②聖蹟桜ヶ丘駅

やすい沿線づくりを実施して人口の流入を図り、シニア層に対しては生活の利便性を確保して安心して暮らせる沿線を目指す必要があります。「子育て世代層の流入」「高齢者世代が生き生きと暮らせる街」にするため、子育て支援事業や生活サポートサービスなどを立ち上げ、さまざまな施策を通じ、京王沿線の魅力づくりに取り組んでいます。

——子育て支援事業では、どのような取り組みを行っていますか。

永田 07年に当社の100%出資子会社・株式会社京王子育てサポートを設立し、08年から沿線で保育施設の運営や自治体の子育て支援サービスを受託して行っています。

また同年、高幡不動駅に保育所や幼児教室、自治体施設が入った子育て支援マンションをつくりました。

さらに、沿線にお住まいの方々が情報を交換し合う「街はび」という沿線のコミュニティサイトも運営しています。子育てに関するアドバイスや情報交換など、子育て世代の交流の場としても大いに活用されているようです。

——もうひとつの生活サポートサービスでは、どのようなことをされているのですか。

永田 現在は、買い物代行や家事代行、住まいに関してお困りのことを解決する住まいのサポートサービス、セキュリティサービスなどを提供しています。

例えば、丘陵地に開発された分譲住宅にお住まいの方が高齢化して、最初にお困りになるのが買い物です。そうした方々のために、購入された商品の宅配や、電話やインターネットなどで注文を受けた商品をお届けする。この買い物代行のサービスを手始めに、サービスメニューを広げていきました。家の片付けや掃除、庭木の剪定や住まいのちよつとした修繕——毎日の生活の中の「ちよつと困ったこと」の解決をサポートするサービスです。こうしたさまざまな「困った」を解消して、お客さまに生活の利便性を確保していただくと。そんな視点でサービスを展開しています。

以前、沿線にお住まいの方々に実施した利用者満足度調査では、京王のイメージは「信頼性がある」「堅実性がある」「安定性がある」というものでした。当社の企業理念は「信頼のトップブランド」ですが、沿線のお客さまもそうしたイメージとともにさらなる貢献を期待されている。家の用事を全く知らないところに頼むというのは、抵抗感があると思います。その点、当社なら信頼感と安心感を持っていただける。地道ながらも生活に根ざした部分で、お客さまの期待にお応えしていきたいと考えています。

——沿線にお住まいの方にとっては、まさに便利で安心なサービスですね。

永田 ええ。ぜひ多くの方にご利用い

ただきたいと思います。生活サポートサービスの営業拠点として、07年に高幡不動駅に「京王ほっとネットワーク」を開設しました。高幡不動は駅の南側がシニア世代の多い丘陵地帯で、再開発された北側には若いファミリー層が流入しています。当社が目指す沿線づくりに近い街だったので、一つめの営業拠点を設置し、モデルケースとして始めました。その後、桜上水店を開設し、今年度は3号店となる永福町店を開設します。

——シニア世代を対象にした施策には、どのようなものがありますか。

永田 シニア世代が住みやすい沿線づくりで大切になってくることに「安全・安心」があります。お一人でお住まいの方が急病で倒れ、誰も気づかなかつた——そんなことは絶対にあってはなりません。そこで、地元のベンチャー会社と組んで、PHSネットワークを利用した非常通報システムを開発しました。このシステムを手頃な料金設定でご利用いただけるようにして、京王線・井の頭線沿線全域で展開しています。ホームセキュリティについても、警備会社と提携し、留守番確認や旅行時巡回など独自のサービスをお付けして提供しています。

——シニア世代の住み替えなどもサポートされているとお聞きしましたが。

永田 「移住・住みかえ支援機構（JTI）」に参画し、シニア世代の自

宅を家賃保証付きで借り上げ、子育て中の若い世代などに貸し出す事業を行っています。民鉄では当社が初めてですね。

また、シニア世代には介護を必要とされ、そうした設備が整った場所での生活を望む方もいらっしゃると思います。あるいは、将来のことも考えて早めにそうした施設に入居したいとお考えの方もいらっしゃるでしょう。

京王グループでは、10年8月、シニアレジデンス（介護付き有料老人ホーム）事業に新規参入するために新会社「京王ウェルシイステージ」を設立しました。12年には世田谷区に第1号施設のオープンを予定しています。高齢化の進行に伴い、京王沿線においても今後シニア層の増加が見込まれています。そういった沿線にお住まいのシニア層に対し、住まい方の選択肢を増やすことで、沿線の魅力をさらに向上させていきます。「京王の施設だったら終身の生活を任せられる」と思っていただけけるようなものを目指して、事業を進めています。

### 沿線活性化に

#### 鉄道の安全は不可欠なもの

——13年に100周年を迎えられますが、今後の抱負をお伺いできますか。

永田 国内経済は一部に持ち直しの動きが見られるものの、デフレの長期化

や少子高齢化の進行、不透明な消費動向など、企業を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。京王グループでは、今年度を起点とする「京王グループ中期5カ年経営計画（転換と強化）」を策定しました。従来から継続的に取り組んでいる「さらなる安全性の向上」と「沿線の活性化」を推進しつつ、コスト構造の転換と財務体質の強化を重視し、この先の経営環境の変化や大規模工事の実施にも耐え得る強固な体制を整えることが目標です。

具体的な施策としては、ATC（自動列車制御装置）の整備、駅のバリアフリー化を継続して進めます。11年度内に全線のATC切り替えを目指すほか、バリアフリー化については今年度中に下北沢駅を除くすべての駅で完了させる予定です。

東京都・調布市とともに進めている調布駅付近連続立体交差事業は、12年度の完了予定で、ボトルネック踏切を含む18カ所の踏切が廃止されることにより、地域の交通環境が大きく改善されると考えています。また、笹塚以西の連続立体化についても、事業主体である東京都とともに事業化に向けて都市計画および環境影響評価の手続きを進めます。

さらに、大規模地震に備えて、高架橋柱やずい道の補強工事を継続的に行っており、吉祥寺駅では高架橋の改築工事を今年度の完成を目指して実施

しています。同時に、13年度の完成予定で京王吉祥寺駅ビルの建て替え工事を進めています。井の頭線の新しい拠点としての機能を有し、周辺環境にも配慮した吉祥寺のランドマークになるとともに、収益力と京王グループのブランド力向上に寄与するものと期待しています。

#### ——大規模投資が続きますね。

永田 こうした大規模投資の負担は決して小さくはありませんが、京王グループの基幹・基軸は鉄道です。京王ブランドが持つ「信頼」は、安心・堅実といったイメージも含めて、鉄道が築き上げてきたものです。当社の鉄道事業は長年にわたる安全で安定した運行の積み重ねによって沿線のお客さまからの信頼を得てきました。現在、取り組んでいる沿線価値向上への取り組みをはじめとした沿線活性化策も、ハード・ソフト両面での鉄道の安全への信頼なくしては成り立ちません。ですから、安全への投資の財源をきちんと確保し、同時に、沿線の活性化も進めていける盤石な体制づくりをしなければいけないと考えています。

当社は堅実ながらも、チャレンジ精神とフロンティア精神に富

んでいるという伝統があります。しかし、現在、京王グループが展開している既存事業の多くは成熟した事業です。今後は、これらの既存事業をベースに新たな成長の道筋を開く必要があります。さらには、グループの英知を結集して新たな事業を立ち上げていく必要もあるでしょう。そこで、13年に京王線・路線バス開業100周年を迎えるに当たり、次の100年に向けて新たな事業を創出するプロジェクトを始動させました。

約300万人の沿線住民の方々に、現在どれだけのものが提供できているかというところ、まだまだ充分ではないと思います。多様化するニーズや生活スタイルに合った施策をきめ細やかに実施し、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」の実現を目指していきたいと考えています。

